

## 「奈良市産米PR」シンボルマーク及びロゴデザインの決定について

奈良市では、消費者のお米への関心を高め、奈良産米の消費拡大につなげることをめざした取り組みとして「奈良市産米PRのシンボルマークとロゴデザインの募集」を実施しました。

全国各地から応募があった52件の中から、選考委員会及び一般投票で決定しました。

### 記

#### 1 最優秀賞作品



シンボルマークは奈良の象徴である鹿と、稲穂を組み合わせたイラストに、太陽や清流といった奈良の自然の恵みを合わせて、奈良市の特徴が凝縮されたお米であること表現しました。

また、色彩は実った稲穂とその温かみが伝わるよう、赤みを帯びた黄色を使用しました。ロゴは奈良市産のお米を広める活動のキャッチコピーを、頭文字NARAの順に配置し、活動の開始・継続を強調するようACTIONのON部分を斜体にしてあります。

## 2 最優秀賞作品の作者

渡部 潤 (わたなべ じゅん)

愛媛県松山市

35歳 男 公務員

## 3 応募総数

52作品 (応募人数は36名)

奈良県12名、大阪府7名、東京都3名、神奈川県2名、静岡県2名

(以下は1名) 北海道、山形県、新潟県、埼玉県、石川県、京都府、兵庫県、  
山口県、愛媛県、高知県

## 4 採用作品の用途

奈良市内小・中学校の給食メニュー表に掲載します。

## 5 募集期間及び募集方法

・平成29年9月1日(金)～9月30日(土)

・奈良市ホームページから奈良ブランド推進課のページにアクセスし、応募用紙を添えて申し込み

## 6 選考方法

選考要領に基づく審査委員4名の採点数と、「奈良市産米PRロゴ投票(平成30年1月19日・20日の2日間ならファミリーにて実施)」での市民の皆様の投票数の合計点により、最も高い得点を得た作品を選考しました。

※審査委員の各項目ごとの採点基準(選考要領より抜粋)

- ①「奈良市産米の魅力を、観光客、奈良市民など幅広い方々にPRすることができる」というコンセプトを簡潔に表現している親しみやすいシンボルマークとロゴタイプであること。(20点)
- ②デザインに独自性があること。(10点)
- ③縮小しても形状や色が判別できること。(10点)
- ④形状及び色が簡潔でシンプルであること。(10点)

## 7 審査委員(50音順、敬称略)

下谷 幸司	奈良市旅館・ホテル組合長
仲川 げん	奈良市長
平野 奈津	スムージー専門店 DRINK DRANK 代表
吉田 由美子	奈良市食生活改善推進員協議会会長

## 6 賞品

最優秀賞受賞者には賞状、奈良市産米10kg、お茶「大和茶」を贈呈。

## 配布資料①

### ■受賞者からのコメント

奈良市は中学生の修学旅行で、初めて訪れた思い出の場所です。

私の地元・松山市北条には奈良市と同じように鹿がいる「鹿島（かしま）」があり、鹿を通じた親近感が奈良市にありました。

これまで小説や美術展などで奈良に触れる機会はありましたが、今回の奈良市産米PRロゴマークの募集は、奈良市を応援することのできるまたとない機会と思い、応募しました。

ロゴマークには奈良市のシンボルである鹿と奈良市の自然を描いています。奈良市のお米が広く全国にアピールされ、永く愛される農産物ブランドになる一助になれば、この上なく嬉しいです。

## 「奈良市産米PR」シンボルマーク及びロゴデザインの決定について

### ■奈良市産米PR事業実施の背景と目的

- ✓ 日本では、米の消費量が年々減少し、昭和37年をピークにほぼ半減している。  
(一人年間消費量…昭和37年：118.3kg ⇒ 平成28年：54.4kg)
- ✓ 日本人の伝統的な食文化である「和食」というスタイルが消えつつある。
- ✓ 和食は、「ご飯」という主食に、それをおいしく食べるための「一汁三菜」という副食を添える日本の伝統的な食事。
- ✓ 栄養バランスに優れ、健康的であるという理由で、世界的に「和食」がブームになっている。
- ✓ 和食の良さが海外でも認められる一方で、日本では忘れられそうになっており、その優れた食文化の保護と継承のために、「和食」がユネスコの無形文化遺産にも登録された。
- ✓ 奈良市では「奈良市地産地消基本計画」「奈良市地産地消促進計画」において「食育の推進と新たな食文化の創造」めざしており、その中で、学校給食における地産地消の推進、地元食材のブランド化を通じた地産地消の推進を進めているところである。
- ✓ そこで、奈良市内の農業生産量の最も多い「米」について、和食の主役にもなる「お米」の良さを見直すいい機会とし、さらには地元奈良での米の消費拡大を図るため、「奈良市産米のPR」に取り組む。

### ■奈良市の米の生産

- ✓ 奈良市の米の生産量は奈良県内第1位  
(生産者：1,568経営体、作付面積：1,350ha、収穫量：7,100 t)
- ✓ 奈良市内の主な産地は、都祁、田原、大柳生、帯解、富雄など
- ✓ 奈良市内品種別作付面積は、ヒノヒカリ49%、コシヒカリ23%、ひとめぼれ13%、キヌヒカリ11%。
- ✓ 一般社団法人日本穀物検定協会の食味ランキング（良質米作りの推進と消費拡大のため、昭和46年からスタート。平成29年度は第47回。）において、奈良県のヒノヒカリは平成22年度から平成27年度まで連続6年「特A」獲得。  
平成28年度、平成29年度は「A」獲得。  
※特に良好「特A」、良好「A」、おおむね同等「A'」、やや劣る「B」、劣る「B'」
- ✓ その他、露葉風、山田錦といった酒米も大和高原では栽培されている。

## ■事業のターゲット

- ✓ 民間調査会社（株式会社マーシュ）の「お米のアンケート調査」の中で、「白米」を食べる頻度の調査結果によると、「ほぼ毎日お米を食べる」割合が高いのが、30代と60代で70.5%。
- ✓ 子育て世代である30代をターゲットとし、学校での食育活動を通して児童の親に奈良市産米PRを行い、消費拡大をめざす。

## ■ロゴマークを活用する理由

- ✓ 奈良市では「奈良市地産地消促進計画」や「奈良市食育推進計画」で、学校給食をはじめとする教育施設でも地域食材を積極的に活用することをすすめている。
- ✓ 「奈良市食育に関するアンケート調査」で地産地消の推進に必要なことは？の問いに83.7%の方が「地場産であることの表示」と答えており、一目で「奈良市産」とわかる表示が、消費拡大の戦略のひとつとなると考えられる。

## ■ロゴマークの活用方法

- ✓ 「奈良市食育に関するアンケート調査」で地産地消の推進に必要なことは？の問いに対して「学校・保育所給食等での使用」が47.2%。
- ✓ 現在、奈良市の学校給食でのお米はすべて「奈良市産米」。
- ✓ 毎月発行する学校給食の献立表にロゴマークを印刷し、各家庭に配布。（平成30年4月からスタート）
- ✓ また、平成30年度から、月1回「白米給食の日」がスタート。その白米給食の日にロゴマークを付けることで、子どもたちへの認知度を高め、家庭などへの浸透をはかる。

## ■今後の活用案

- ✓ 奈良市東部地域の直売所や市街地の直売所、米穀専門店において、奈良市産米にロゴシールを貼り、店舗にポスターやのぼりを掲示することで、奈良市産米のPRをすすめる。
- ✓ 市役所の地下食堂での奈良市産米プロモーション
- ✓ 奈良市産米を使用している市内の旅館・ホテルや飲食店に、ロゴマークを活用したライセンスシールなどを交付し、奈良市全体で奈良市産米をPRしている一体感をつくる。

## 配布資料③

### 日本の米を取り巻く現状

○米の年間1人当たり消費量（精米）

ピーク時 118.3kg（昭和37年）→54.4kg（平成28年）

○米の需要量（国内消費仕向量）（玄米）

ピーク時 1,341万トン（昭和38年）→838万トン（平成28年）

○国内産米の生産量（玄米）

ピーク時 1,455万トン（昭和42年）→804万トン（平成28年）

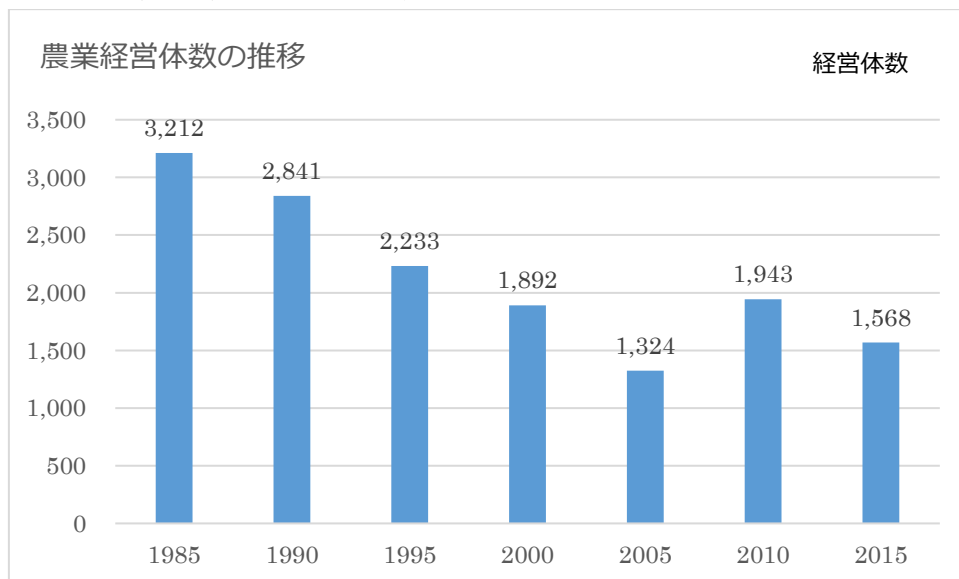
### 奈良市産米の生産状況

○生産者数

県内第1位 1,568経営体

※農業経営体 販売目的の経営体数（2015農林業センサス）

（参考）農業経営体数の推移



出典：1985年～2015年 農林業センサス

※2005年以前の数値には、旧月ヶ瀬村、旧都介野村、旧針ガ別所村を含まない。

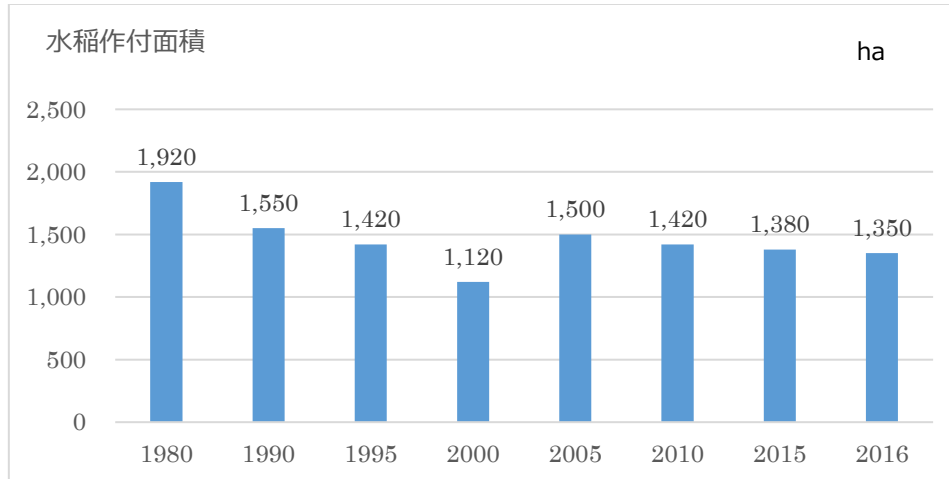
※2000年以前については、販売農家数の数値である。

○作付面積

県内第1位 1,350ha

※水稲の作付面積（2016 農林水産省 作物統計調査）

（参考）作付面積の推移



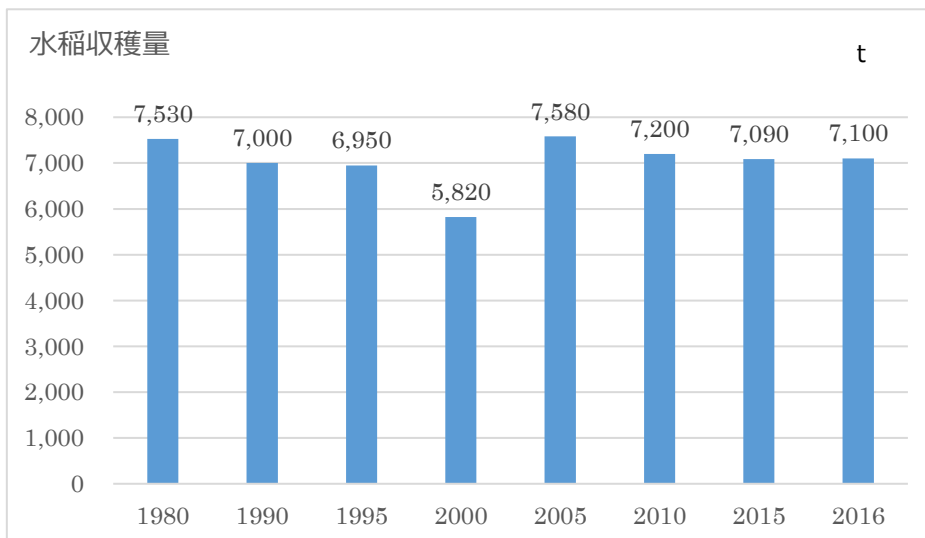
出典：1980年～2016年農林水産省 作物統計調査

※2000年以前の数値には、旧月ヶ瀬村、旧都介野村、旧針ガ別所村を含まない。

○収穫量

県内第1位 7,100t

※水稲の収穫量（2016 農林水産省 作物統計調査）



出典：1980年～2016年農林水産省 作物統計調査

※2000年以前の数値には、旧月ヶ瀬村、旧都介野村、旧針ガ別所村を含まない。

## 奈良市産米の消費

### ○ニーズ

奈良県産米 第1位 45.2%

※奈良市産米消費拡大事業アンケート結果（2017 第1回-第8回集計分）

### ○消費量

奈良市 全国第12位 75.77kg

※総務省家計調査（二人以上の世帯） 平成28年1月-12月

※全国平均 68.74kg

### ○推計消費量

推計消費量 7,967t

※総務省家計調査（二人以上の世帯）に平成28年12月1日時点の奈良市の二人以上の世帯数105,157世帯を乗じて算出した

普段食している米で、奈良県産以外のお米を消費している人が54.8%いることから、奈良のお米をPRして消費拡大を目指す意義がある。

## (参考) 穀物類の消費

### ○パン消費量

奈良市 全国第7位 52.67kg

※総務省家計調査（二人以上の世帯） 平成28年1月-12月

※全国平均 45.09kg

### ○食パン消費量

奈良市 全国第1位 27.10kg

※総務省家計調査（二人以上の世帯） 平成28年1月-12月

※全国平均 19.21kg

### ○小麦消費量

奈良市 全国第1位 4.17kg

※総務省家計調査（二人以上の世帯） 平成28年1月-12月

※全国平均 2.6kg

奈良市では、米だけでなく、パン、小麦の消費量も総じて高いことから、パン消費から米消費へ移行する潜在力がある。



(参考) 米の流通割合

分類	割合(%)
JA	45.8
農家直販	26.7
農家消費	18.3
その他	9.2
合計	100

出典：農林水産省 米をめぐる参考資料

日本全体での割合のため、奈良市の実態と異なる場合があります。